

大学院工学系研究科電気系工学専攻修士実験

MPI による並列プログラミング入門

下川辺隆史・埜敏博・中島研吾

東京大学情報基盤センター

本稿は 2019 年 S1 タームに実施された大学院工学系研究科電気系工学専攻修士実験「MPI による並列プログラミング入門」について紹介する。修士実験は同専攻の修士課程（1 年）の学生が 2 人または 3 人が 1 組となって、1 ターム（約二ヶ月）のうちに、各教員が提供する課題に基づき実習を行うもので、原則として受講者の専門とは異なる分野の課題を選択することとなっている。

科学技術シミュレーションにおいて大規模並列システムが広く使用されるようになったが、そのためには、並列計算プログラミングに関する知識と経験が必須である。本実験では、分散並列システムにおいて広く使用されている MPI（Message Passing Interface）による並列プログラミングについて講義、実習を行う。実習では情報基盤センターの Oakforest-PACS スーパーコンピュータを使用する。

本年度は 3 組、7 名の受講者があり、Oakforest-PACS による並列プログラミング実習を実施した。下記内容について座学及び演習を実施した：

- Oakforest-PACS ログイン
- MPI 並列プログラミング
- SPMD（Single Program Multiple Data）型パラダイムの習得
- MPI プログラムによる数値積分